平成24年度文部科学省 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン採択事業

ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン
外部評価委員会

External Evaluation 2014

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン連携7大学運営連絡会

（順天堂大学、島根大学、鳥取大学、岩手医科大学、東京理科大学、明治薬科大学、立教大学）

平成26年11月22日(土)　14:00～17:00

順天堂大学　センチュリータワー北4階405教室

Juntendo University
Shimane University
Tottori University
Iwate Medical University
Tokyo University of Science
Meiji Pharmaceutical University
Rikkyo University

Contents

1.プログラム …… 1

2.事業概要 …… 2

全体事業概要説明 …… 3

① 教育分野

鳥取大学 …… 4

明治薬科大学 …… 4

② 地域分野

島根大学 …… 5

岩手医科大学 …… 5

③ 研究分野

東京理科大学 …… 6

立教大学 …… 6

④ ICTと大学間連携事業

順天堂大学 …… 7

3. 達成目標と自己評価

達成目標･評価指標 …… 8

自己評価 …… 9

4.各大学のコース紹介と養成実績

順天堂大学 …… 11

島根大学 …… 13

鳥取大学 …… 15

岩手医科大学 …… 16

東京理科大学 …… 18

明治薬科大学 …… 19

立教大学 …… 20

5.がんに特化した講座等について

順天堂大学 …… 21

腫瘍内科学研究室

緩和医療学研究室

放射線治療学講座

島根大学 …… 22

緩和ケア講座

岩手医科大学 …… 22

緩和医療学科

放射線腫瘍学科

明治薬科大学 …… 22

がん先端治療学

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン外部評価委員会

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン～ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン～では、これまでの事業活動を振り返り、また今後の活動の重要な指針とするため、外部評価委員会を受審することといたしました。

評価の受審にあたっては、まず自己点検表を作成し、事前配布資料として評価委員に呈示いたします。次に、主幹大学の順天堂大学にて審査会を開催し、事業内容・活動内容を説明して評価をいただく予定としています。

開催概要

日　時　：　平成26年11月22日(土) 14:00～17:00
場　所　：　順天堂大学　本郷・お茶の水キャンパス　センチュリータワー北4階405教室
評価委員：　委員長 >>> 門田 守人（公益財団法人　がん研究会有明病院　院長）
　　委　員 >>> 林 憲一　（独立行政法人　国立がん研究センター中央病院　薬剤部長 ）
　　委　員 >>> 天野 慎介（一般社団法人　グループ・ネクサス・ジャパン　理事長）

プログラム

司　会 >>> 統括コーディネーター　髙橋 和久
（順天堂大学大学院医学研究科呼吸器内科学　教授）

1. 開会挨拶 ……14:00～14:10　10分
統括責任者 >>> 順天堂大学　学長　木南 英紀

2. 事業概要説明 ……14:10～15:40　90分

全体事業概要説明　15分
事業推進責任者 >>> 順天堂大学大学院医学研究科長　新井 一

① 教育分野　20分
鳥取大学医学部附属病院　がんセンター　教授　辻谷 俊一
明治薬科大学　副学長／薬物治療学　教授　越前 宏俊

② 地域分野　20分
島根大学　内科学講座呼吸器・臨床腫瘍学　教授　礒部 威
岩手医科大学　内科学講座(血液・腫瘍内科分野)　准教授　伊藤 薫樹

③ 研究分野　20分
東京理科大学　薬学部生命創薬科学科　教授　早川 洋一
立教大学　理学研究科物理学専攻　特任准教授　洞口 拓磨

④ＩＣＴと大学間連携事業　15分
順天堂大学 大学院医学研究科臨床腫瘍学　教授　加藤 俊介

3. 外部評価委員からの質問 ……15:40～16:15　35分
～ 質疑応答 ～

休憩　16:15～16:30　15分

4. 外部評価委員による講評 ……16:30～16:50　20分

5. 閉会挨拶 ……16:50～17:00　10分
順天堂大学 大学院医学研究科分子病理病態学　教授　樋野 興夫

事業推進責任者 ：順天堂大学大学院医学研究科長　新井 一

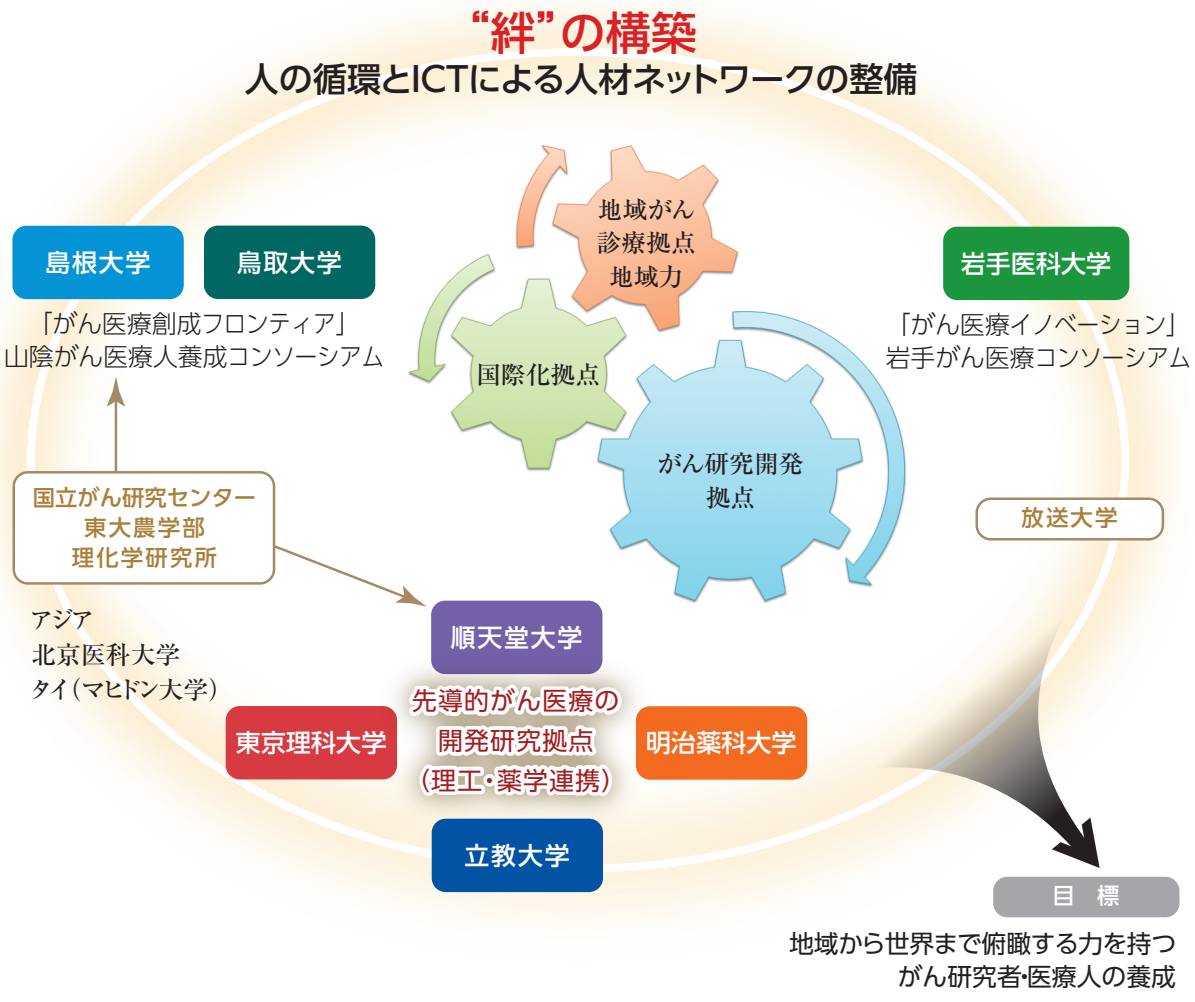
ICTと人で繋ぐがん医療維新プランの概要と期待される効果

本プランでは、本学及び連携医科系大学と非医科系大学をICTと循環型人材交流で結び、地域から世界まで、さらに基礎から臨床まで俯瞰するがん研究者･医療人の養成を目的としています。

順天堂大学に整備する先導的がん医療開発研究センターを拠点とし、医･理工･薬学部との連携強化と実質化を図り、山陰と東北の地域内診療ネットワークと首都圏のがん医療開発拠点との新たな連携を推進します。

医学･薬学･理学･工学連携による多学的な研究の促進は、がん研究の成果を臨床の現場に迅速かつ効率的に導入することを可能にします。がん医療開発研究の基盤となる拠点を首都圏に置き、山陰･東北地方の大学との連携をICTおよび人材交流を介して推進することにより、研究成果を速やかに地域がん医療に還元することができます。

地域と首都圏の間で循環型人材交流を行い、がんの診療現場のニーズを共有することで、シーズが生まれます。がん診療を実践する専門医療職は、先導的がん医療の開発現場に関わることで、臨床試験、創薬、バイオマーカー検索に携わることが可能になり、新薬の開発が加速し、我が国のがん医療の均てん化と底上げが期待されます。



鳥取大学

鳥取大学　医学部附属病院　がんセンター　教授　辻谷 俊一

鳥取大学におけるがん医療人養成の取り組みについて

本学における主な取り組みとしては、(1)がん医療人の養成(①がん化学療法看護認定看護師・乳がん看護認定看護師、②がん専門看護師、③山陰がん認定医療スタッフ)、(2)地域医療機関との交流、(3)社会への情報発信、などを行ってきた。(1)－①平成24年9月より『がん化学療法看護認定看護師教育課程』を開講し、受講生7名(目標の70%:全国9施設中1施設のみ150%で他は50～90%)に、多職種連携(本学、連携大学およびがん診療連携拠点病院等の看護師、医師、薬剤師、検査技師、臨床心理士、事務などの教職員等)による講義(DVDも活用)、演習、実習を約7ヶ月間(合計660時間)行い、全員が認定試験に合格(目標の100%)した。平成25年度も9月より同教育課程を受講生9名(目標の90%:全国では45～73%)で開講し、このうち8名が認定試験に合格した。また、平成26年9月からは地域のニーズを踏まえ『がん化学療法看護認定看護師教育課程』を休講し、『乳がん看護認定看護師課程』を開講し、4名が受講中である。(1)－②『がん看護専門看護師養成課程』を、大学院医学系研究科保健学専攻内に設置するため、平成24年度より看護教育論、看護倫理、看護管理論、看護研究などの必要科目を整備すると共に、大学院医学系研究科保健学専攻長を委員長として、研究科長(医学部長)も含めたワーキンググループで設置準備を進め、平成27年4月に設置予定で学生募集も開始した。(1)－③島根大学と共同で『山陰がん認定医療スタッフインテンシブコース』を開催し(鳥取大学ではセミナー10回施行)た。(2)がんセンター主催の公開セミナーを近隣の地域がん診療連携拠点病院とICTで繋いで開催した。また、「院内がん登録拠点病院に対する研修会」を本院がんセンターにおいて開催。(3)鳥取大学主催の市民向け「サイエンスアカデミー」において、がんに関する基礎知識などを講演し、社会への情報発信を行った。

明治薬科大学

明治薬科大学　副学長／薬物治療学　教授　越前 宏俊

がん薬物治療に貢献できる国際的な薬学知識と研究能力をもつPharmacist Scientistの養成

順天堂チームのがんプロフェッショナル養成基盤推進事業において、本学は主として教育分野での貢献を行っている。大学個別で薬学大学院および学部学生を対象として国際的な視野を持つがん専門薬剤師を志向するpharmacist scientistの教育を行うとともに、ICTを利用して連携校の他職種大学院生に向けて薬科大学からの情報発信を行っている。がん専門薬剤師資格取得者の養成のために社会人薬剤師が進学しやすい大学院カリキュラムを設定した。また、教育担当教員として日本臨床腫瘍薬学会理事長である遠藤一司氏と緩和医療薬学会代表理事である加賀谷肇氏を教授に迎え、大学院教育はもちろんの事、がん薬物治療・緩和医療教育を独立した半期の教育課程としてがん専門薬剤師を志向し大学院に進学する学生の増加させるよう努力している。さらに、研究面では、東京大学から寄付講座「がん先端治療学:アルファ粒子線・免疫治療学」教授として柳衛宏宣教授を迎え、研究面でも体制を整えた。これら教員は毎年ICT特別講義を通じて他のがんプロ参加校と連携した教育活動を展開している。本年度は柳衛宏宣教授が「中性子捕捉療法によるがん先端治療」講義を2回に分けて実施する。がん薬物治療において国際的な視野をpharmacist scientistを養成する観点から多くのがん薬物治療講演会を国内の著名がん専門医・薬剤師だけでなく、がん専門薬剤師教育の先進国である米国イリノイ大学薬学部からがん専門薬剤師を招き大学院・学部学生、教員、社会人薬剤師を対象とした教育活動を展開している。参加はオープンで内容はHPおよび順天堂大学のがん生涯教育センターのHPへの掲載を通じて広く社会に情報発信をしている。一般社会への情報発信として、毎年学園祭における市民講座にてがんプロ事業共催の講演会を企画し、今年度は、独)国立がん研究センター東病院薬剤部長の齋藤真一郎先生の講演会を実施した。さらに、ICT活動としては、従来から順天堂チームのICT特別講義に毎回参加しているが、筑波大学の管理するICT教育コンテンツにも本学教員がコンテンツ提供を行った。順天堂チーム参加校との連携においては、連携校で開催されるFD合宿には本学教員および大学院生、ポスドク研究員が欠かさず参加し、FD活動の中から共同研究のテーマを見いだし研究プロジェクトを進行させている。

島根大学

島根大学　医学部　内科学講座　呼吸器・臨床腫瘍学　教授　礒部 威

山陰地区における地域貢献への取り組み

山陰全域の日常的がん治療水準向上のために優れた医師及びメディカルスタッフの養成と認定を行う目的で、地域がん診療ネットワークの強化と山陰全域のがん診療の均てん化を図る、斬新的な「山陰がん認定医療スタッフ育成インテンシブコース」を鳥取大学と共同で設置した。TV会議システムを用いた講義、セミナーを行い、病病連携を実際に行っているがん診療拠点病院ではない地域の医療機関を対象とした、多職種によるチーム医療TVカンファレンスを行っている。

国内研修として島根大学から順天堂大学へ大学院生を派遣し、呼吸器内科、乳腺科、腫瘍内科、血液内科にて研修を行い、地方の地域医療と都市部の地域医療について学ぶことができた。また海外研修として、トーマスジェファーソン大学にて研修を行い、米国のチーム医療の現状と高齢者に対する適正ながん化学療法への取り組みについて学ぶことができた。

「地域貢献」をテーマに、大学院に新たに設置した「地域がん専門医育成コース」では、地域に多い高齢者がん医療に精通し、地域連携を推進し、地域貢献のマインドを有する全人的がん診療専門医を養成すると共に、リサーチマインドを有し、臨床試験を計画し、山陰地区からエビデンスを発信できる人材を育成している。

島根大学では従来のがん診療基盤（呼吸器・臨床腫瘍学講座、放射線腫瘍学講座、腫瘍センター）を充実するために医学部に緩和ケア講座（専任教授）を新たに設置し、鳥取大学のがんセンターと連携して山陰地区における緩和ケアの推進を行っている。

岩手医科大学

岩手医科大学　内科学講座　血液腫瘍内科分野　准教授　伊藤 薫樹

本学の取り組み～人とICTでつなぐ地域医療の均てん化と教育・研究連携

本学では独創的・効率的ながん医療人の育成と啓発事業を進めてきた。インテンシブコースの「先導的がん臨床研究に精通した医療人育成コース」と大学院コースの「緩和ケア地域連携を支援する指導的医療人育成コース」の2つのコースを設定し、現在まで15名の受講生を受け入れ6名が修了した。また、地域との教育連携を図るために地域がん拠点病院とICT下でキャンサーボードミーティングなどを定期的に開催している。

啓発事業では、地域での教育・研究のあり方に関する公開シンポジウムや、優しいがん医療を目指す市民公開講座、がん教育推進を目指したキッズキャンサーセミナーを開催した。連携大学間の取組では、地域のがん医療の問題点を連携大学間で共有することを目的に連携ICT講義「患者が求めるがん医療」と「がん患者の就労」を開催し活発な双方向議論を行った。また、乳腺、放射線、婦人科カンファレンスを連携大学間で開催し医療の質の向上と情報共有を図っている。さらに連携を通じて乳がん患者の悪心・嘔吐予防に関する多施設共同無作為化比較試験や婦人科腫瘍のバイオマーカーを探索する共同研究を展開しており、貴重なプロダクトが生まれるものと期待される。

東京理科大学

東京理科大学　薬学部　教授　早川 洋一

東京理科大学におけるがんシステム･創薬研究者の養成

本学では、薬学研究科薬科学専攻修士課程の学生を対象とする「がんシステム･創薬研究者養成コース」により、がん研究者養成を行っている。平成24年度に本コースに参加した学生10名（定員3名）はすべて修士課程を修了したが、25～26年度にも、定員（5名）を超える学生（6名および9名）が参加している。本コースでは、がん細胞および抗がん剤作用機序を細胞内シグナル伝達系の集積による「システム的統合」として理解し、がん分子標的薬開発を標的タンパク質の立体構造情報に基づいて理論的に創薬する「in silico 創薬」を実践できる研究者の養成を目的としている。本コースの学生は、がん関連研究テーマに基づく薬学特別実験（卒業研究）において、先端研究分野における科学的問題解決を体験することにより、研究能力のレベルアップが促されている。

このような教育研究の一環として、連携大学との共同研究が複数実施されている。このうち、第1回臨床研究チーム合宿の採択テーマである「がん化学療法に伴う好中球減少とNAMPT活性およびSIRT1遺伝子発現に関する検討」では、基礎研究を担当する本学に加えて、臨床研究を担当する島根大学、順天堂大学、岩手医科大学が参画し、横断的研究体制が実現している。また、本学と順天堂大学との細胞外マトリックスに着目した共同研究も進行しており、これらの共同研究では、ICTを活用した定期的な報告･討論会等が開催され、連携を深めている。

立教大学

立教大学　理学研究科　物理専攻　特任准教授　洞口 拓磨

立教大学における医学物理研究コースについて

立教大学の本プロジェクトの達成目標は

（1）物理学の素養を身に付けた放射線がん治療の専門家の養成

（2）放射線がん治療の質向上に向けた研究テーマの追及

である。現在、定年制教員5名、特任准教授1名、後期課程院生2名および前期課程大学院生2名がその目標に向かって研究を推進している。

昨年度より追求してきたテーマは

（1）放射線物理過程を追求した放射線治療･診断の高精度化手法の確立と生体組織等価吸収線量及び生体内線量分布モニター技術の開発

（2）医療現場における統計解析を利用したリスクマネージメント

であり、本年度の成果は主著者学会発表5件公表している。

後期課程に設けられている医学物理研究コースには2012年度1名、2013年度2名の入学があり、現在学位取得を目指し研究に邁進している。本年度はがんプロ市民公開シンポジウムを開催し、連携校である岩手医科大学より有賀久哲先生にご講演頂いた。また、順天堂大学との相互教育プログラム協定のもと、本学から物理系科目を提供することにより、順天堂大学では本年度から医学物理士認定機構における医学物理教育コースの条件付き認定を受けている。来年度は正式な認定を目指し、順天堂大学との更なる教育連携を実現させる予定である。また、順天堂大学からは放射線治療学講座 笹井啓資教授及び杉本聡助教らを招き、医学物理に関する授業を担当して頂いている。このような連携校間の人材交流の結果、医学物理に対し興味を抱く学部学生が飛躍的に増加しており、来年度以降のコース受講者の増加が予想されることは特筆すべき成果と評価できる。また、立教大学独自の取り組みとして医学物理セミナーをこれまで2回開催しており、今後は連携校からも講師を招き定期的に開催していく予定である。今後も連携校との交流を維持し、本がんプロ拠点の特徴を生かした研究の発展を目指す。

順天堂大学

順天堂大学　大学院医学研究科臨床腫瘍学　教授　加藤 俊介

がん研究者･医療人の養成におけるICT活用と人で繋ぐ大学間連携事業

本プランでは、連携医科系大学と非医科系大学をICTと循環型人材交流で結び、がん研究者･医療人の養成を目的としている。

昨今のICT技術革新は目覚ましく、遠隔教育や遠隔医療などの利用例が続々報道されている。本グループにおいても、ICT環境を活用して連携大学間における情報共有、教育力･研究力の向上に努めている。本グループに所属する7大学の連携範囲は、東北･首都圏･山陰と広域にわたるため、定期的な情報共有･情報交換においてはICTの活用は必須と考えられる。(主なICTの活用状況事例については、①②③④⑤の通りである。)

ICTの活用が本事業における広域な連携および情報共有にとって重要な役割を果たしているが、一方では、研究者･医療人同士が直接向き合い円卓を囲んだワークショップ･研修会を開催するなど対話力を向上させる大学間連携事業の開催も積極的に実施している。(連携事業の実施状況については⑥⑦⑧⑨の通りである。)

平成26年度は新たな連携事業として、島根大学と順天堂大学の間で2か月間に渡り、医師の派遣人材交流を行った。また国際シンポジウムを開催し、その様子を連携大学だけでなく、タイのマヒドン大学にもICT配信し、国際的な人材交流を行う予定である。

このように、ICTの活用とface-to-faceによるコミュニケーションを重視した事業とのバランスを最適の状態に保ちながら、密に連携を図っていくことが、本事業の真の目的とも言うこともできる。

① 連携7大学運営連絡会
② 連携ICT特別講義
③ 連携大学および地域関連病院･協力施設との共同カンファレンス
④ シンポジウム等配信
⑤ がんプロ全国e-learningクラウド
⑥ 先導的がん医療開発プログラム(研究コンサルティング事業)
⑦ 連携FD研修会(FDワークショップ)
⑧ 臨床研究研修会
⑨ 教員･医師の循環(H26年8～9月　島根大学　助教　沖本 民生)

達成目標と自己評価

個性や特色、得意分野等に応じた本グループ固有の達成目標・評価指標

達成目標	達成目標に対する評価指標(定量的なもの)	達成目標に対する評価指標(定性的なもの)
ICTを活用し連携を深める	● 7大学運営連絡会（年6回以上開催） ● e-learningを活用(共通科目11科目作成) ● ICTを活用し、双方向の授業を開催（共通科目年4回開催） ● 共同授業カンファレンス開催（年5回以上）	● 広域に渡る連携大学間の交流促進 ● 双方向授業、共同授業カンファレンスによる遠隔地の教員・学生の情報共有・連携強化
循環型交流の実現をする	● 連携大学間において共同研究実施（5プロジェクト） ● 共同授業カンファレンス開催（年5回以上） ● 多職種コミュニケーション研修（合宿）毎年1回開催 ● 教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの開催（年1回以上） ● 連携大学間の教員循環授業を開催（年7講義以上）	● 臨床研究、臨床試験、国際共同臨床試験等への参加
地域との交流・均てん化の実施	● 大学病院と地域病院間での共同カンファレンス開催（年2回以上） ● 多職種コミュニケーション研修（合宿）毎年開催	● 地域医療機関での実習実績 ● 地域がん登録との連携
国際化に向けた拠点センターの設置	● 国際学会等での研究論文発表数（年間5件以上） ● 海外の先進的な研究機関等への研修派遣（年間1名以上） ● 海外の先進的な大学から教員を招聘し講義を開催（年3回以上） ● 海外より招聘し、国際シンポジウムを開催（年1回以上）	● 研究コーディネータの雇用 ● がん研究者の連携・共同研究の実施
がん診療への貢献・社会への情報発信をおこなう	● HP更新（月1回以上） ● 一般向講演会の開催（年3回以上） ● 活動報告書作成（年1回） ● ニュースレター作成（年4回）	● 臨床現場との連携強化
がん医療教育の充実を図る	● インテンシブコースの設置（連携大学あわせて3コース） ● e-learningを活用（共通科目11科目作成） ● ICTを活用し、双方向の授業を開催（共通科目年4回開催） ● 各コースの受入目標人数(平成24年度)に対する充足率100% ● 認定看護師資格取得100%	● チーム医療の重要性を教育 ● 実質的ながん医療人の教育 ● ファカルティ・ディベロップメント（ワークショップ）のプロダクト ● がん治療認定医の資格取得を推奨
がん研究の実施基盤の設置	● 連携大学間において共通研究プロトコルの作成（5プロジェクト以上） ● がんに関する研究論文発表（年間5件以上）	● がん研究者の連携・共同研究の実施

達成目標と自己評価

自己評価結果

■ 連携7大学での共同事業および各大学における分担事業の自己評価（7大学の平均値）を表示しています。

達成目標	評価区分	評価指標	H26年度自己評価平均値			H25年度自己評価平均値		
			達成目標	評価区分	評価指標	達成目標	評価区分	評価指標
ICTを活用し連携を深める	定量的評価	7大学運営連絡会（年6回以上開催）	4.4	4.5	5.0	4.4	4.6	5.0
		e-learningを活用(共通科目11科目作成)			3.7			3.7
		ICTを活用し、双方向の授業を開催（共通科目年4回開催）			4.9			5.0
		共同授業カンファレンス開催（年5回以上）			4.5			4.6
	定性的評価	広域に渡る連携大学間の交流促進		4.2	4.0		4.0	4.5
		双方向授業、共同授業カンファレンスによる遠隔地の教員・学生の情報共有・連携強化			4.4			3.6
循環型交流の実現をする	定量的評価	連携大学間において共同研究実施（5プロジェクト）	4.3	4.3	3.9	4.2	4.3	4.0
		共同授業カンファレンス開催（年5回以上）			4.5			4.2
		多職種コミュニケーション研修（合宿）毎年1回開催			4.7			4.6
		教員の指導能力向上のための ファカルティ・ディベロップメントの開催（年1回以上）			4.8			5.0
		連携大学間の教員循環授業を開催（年7講義以上）			3.6			3.0
	定性的評価	臨床研究、臨床試験、国際共同臨床試験等への参加		4.1	4.1		4.0	4.0
地域との交流・均てん化の実施	定量的評価	大学病院と地域病院間での共同カンファレンス開催（年2回以上）	4.3	4.4	4.0	4.2	4.4	4.0
		多職種コミュニケーション研修（合宿）毎年開催			4.7			4.5
	定性的評価	地域医療機関での実習実績		4.2	4.3		4.0	4.0
		地域がん登録との連携			4.0			4.0
国際化に向けた拠点センターの設置	定量的評価	国際学会等での研究論文発表数（年間5件以上）	4.2	4.0	4.2	4.0	3.8	3.8
		海外の先進的な研究機関等への研修派遣（年間1名以上）			3.9			3.8
		海外の先進的な大学から教員を招聘し講義を開催（年3回以上）			3.5			4.0
		海外より招聘し、国際シンポジウムを開催（年1回以上）			4.5			3.8
	定性的評価	研究コーディネータの雇用		4.7	5.0		4.5	5.0
		がん研究者の連携・共同研究の実施			4.3			4.4

達成目標と自己評価

自己評価結果

■ 連携7大学での共同事業および各大学における分担事業の自己評価（7大学の平均値）を表示しています。

達成目標	評価区分	評価指標	H26年度自己評価平均値			H25年度自己評価平均値		
			達成目標	評価区分	評価指標	達成目標	評価区分	評価指標
がん診療への貢献・社会への情報発信をおこなう	定量的評価	HP更新（月1回以上）	4.6	4.7	4.3	4.5	4.6	4.4
		一般向講演会の開催（年3回以上）			4.4			3.8
		活動報告書作成（年1回）			5.0			5.0
		ニュースレター作成（年4回）			5.0			5.0
	定性的評価	臨床現場との連携強化		4.2	4.2		4.2	4.2
がん医療教育の充実を図る	定量的評価	インテンシブコースの設置（連携大学あわせて3コース）	4.1	4.2	4.6	4.2	4.3	4.3
		e-learningを活用（共通科目11科目作成）			3.7			3.7
		ICTを活用し、双方向の授業を開催（共通科目年4回開催）			4.9			5.0
		各コースの受入目標人数に対する充足率100%			4.0			4.1
		認定看護師資格取得100%			4.0			5.0
	定性的評価	チーム医療の重要性を教育		4.0	4.0		4.0	4.1
		実質的ながん医療人の教育			4.0			3.9
		ファカルティ・ディベロップメント（ワークショップ）のプロダクト			4.6			4.5
		がん治療認定医の資格取得を推奨			3.3			3.3
がん研究の実施基盤の設置	定量的評価	連携大学間において共通研究プロトコルの作成（5プロジェクト以上）	4.2	4.1	3.9	3.9	3.8	3.7
		がんに関する研究論文発表（年間5件以上）			4.4			3.8
	定性的評価	がん研究者の連携・共同研究の実施		4.3	4.3		4.2	4.2

		H26年度	H25年度
ICTと人でつなぐがん医療維新プラン（平成24.25年度）自己評価結果	定量的評価	4.3	4.3
	定性的評価	4.2	4.1
	総合評価	4.3	4.2

■ 評価の基準

5.0～4.1	当初の計画の通り進展している。
4.0～3.1	概ね順調に進展している。
3.0～2.1	実施できていない部分もあるが、来年度には実施できる見込みである。
2.0～1.1	やや遅れている／実施に向けた検討を行なっているが、実施時期は未定である。
1.0	当初の計画より大幅に遅れている。／実施できていない。

各大学のコース紹介と養成実績

大学院 教育コースの紹介

順天堂大学

大学名等	順天堂大学大学院医学研究科医学専攻（博士課程）
コースの名称	次世代先導的がん研究者養成コース
養成する専門分野	がん研究医
コースの開始時期／修業年限（期間）	平成25年4月 ／ 4年
コースの履修対象者	医学研究科医学専攻（博士課程）大学院生
養成する人材像	地域から世界まで俯瞰する力を持ち、高度な研究能力を有する次世代がん研究者の養成をおこなう。
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	がん臨床の専門家と研究者のもとでの研修（演習・実験実習・研究指導等）に加え、連携大学とのテレビ会議等を利用した講義や合同の研究カンファレンスに参加することにより、履修者・国内留学生はトランスレーショナルな研究課題のディスカッション・発表会を行うことができる。 後述の先導的がん医療開発研究センターによる研究コンサルティング等の支援を利用することで、質の高いがんに関する研究の計画立案・計画書作成を行うことが期待できる。また、大学間連携事業（ＩＣＴ特別講義、ＦＤ研修会、臨床研究チーム研修等）にも積極的に参加することにより、連携大学・協力施設等との共同研究に繋がるシーズを発見することが可能となり、質の高い学位論文の公表が見込まれる。さらには、教員同士の人材循環も積極的に促す仕組みを構築することが可能となり、がん臨床研究の質の向上、がん医療の質の向上が期待される。
教育内容の特色等	ＩＣＴ環境を利用した講義・カンファレンス、大学間連携事業（ＦＤ研修会等）により、連携大学との情報交換がより効果的に行われる。また、順天堂大学に新たに整備する「先導的がん医療開発研究センター」による研究支援のもと、履修者はがんの研究プロトコール作成等を効率よく行うことができる。具体的には、基礎データベース活用による研究計画書の制度を上げる支援および、研究デザインに関する検討・統計的側面からの支援を受けることが可能である。また、連携大学および協力施設との共同研究計画についても、当該センターがＩＣＴを積極的に活用し、連携のコーディネートを行うことで、共同研究計画の立案・作成がより円滑になる。
養成人数	下表参照

年　度	Ｈ24	Ｈ25	Ｈ26	Ｈ27	Ｈ28	計
募集人員	0	5	5	5	5	20
受入目標人数	0	5	5	5	5	20
受入実績（H26.10.1時点）	0	12	16			

インテンシブ 教育コースの紹介

順天堂大学

大学名等	順天堂大学大学院医学研究科医学専攻
コースの名称	次世代先導的がん専門医療人養成コース（インテンシブ）
養成する専門分野	がん治療
コースの開始時期／修業年限（期間）	平成25年4月 ／ 1年間（20講義）
コースの履修対象者	医師、薬剤師、看護師、その他メディカルスタッフ
養成する人材像	がん診療の最前線を学ぶとともに、基本的ながん臨床・基礎研究を理解できる次世代がん専門医療人を養成する。また、地域がん医療の現状や医師不足・地域定着化への連携を理解できるメディカルスタッフを育成する。
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	がん診療に関わる医療人の質の底上げが可能になる。がん研究や地域におけるがん医療の現状を理解することにより、日本、特に東京都・千葉県・静岡県の離島過疎地区におけるがんの地域医療の均てん化が是正される。
教育内容の特色等	基礎研究の成果をがん患者の診療の現場に活かすために、臨床に視点においた大学院レベルの基礎教育を実施する。ICT（TV会議やe-learning）も活用し、地域がん医療の現状・国際的ながん医療を学ぶ。
養成人数	

年　度	H24	H25	H26	H27	H28	計
募集人員	0	20	20	20	20	80
受入目標人数	0	10	10	10	10	40
受入実績（H26.10.1時点）	0	43	5			

大学院 教育コースの紹介

島根大学

大学名等	島根大学大学院医学系研究科医科学専攻
コースの名称	地域がん専門医育成コース
養成する専門分野	がん化学療法
コースの開始時期／修業年限（期間）	平成25年4月 ／ 4年
コースの履修対象者	大学院医学系研究科医科学専攻博士課程　大学院生
養成する人材像	地域のがん医療の均てん化を図るために、地域に多い高齢者がん医療に精通し、地域連携を推進し、地域貢献のマインドを有する全人的ながん診療専門医を養成すると共に、リサーチマインドを有し、臨床試験を計画し、山陰地区からエビデンスを発信できる能力を育成する。
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	山陰におけるがん診療医師不在、不足の解消と地域への定着化を促進し、県民が安定したがん医療の提供を受けることを可能とする。
教育内容の特色等	がん診療の基本、治療の適応と禁忌を知り、診療ネットワークの構築について学ぶと共にトランスレーショナルリサーチ、臨床試験についての演習を含む教育内容とする。
養成人数	下表

年　度	H24	H25	H26	H27	H28	計
募集人員	0	3	3	3	3	12
受入目標人数	0	3	3	3	3	12
受入実績（H26.10.1時点）	0	1	1			

インテンシブ 教育コースの紹介

島根大学（鳥取大学）

大学名等	島根大学大学院医学系研究科医科学専攻 （鳥取大学大学院医学系研究科医学専攻）
コースの名称	山陰がん認定医療スタッフ育成コース（インテンシブ） （鳥取大学との合同事業）
養成する専門分野	地域がん認定医療
コースの開始時期／修業年限（期間）	平成24年10月 ／ 1年間
コースの履修対象者	地域の医師、薬剤師、看護師、その他メディカルスタッフ
養成する人材像	山陰地区の日常的がん治療水準向上を目指し、その共通基盤となる臨床腫瘍学の知識・基本技術に習熟し、医療倫理に基づいたがん治療を実践する優れた医師及びメディカルスタッフを養成する。
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	山陰地区におけるがん診療医師及びメディカルスタッフ（看護師、薬剤師、臨床検査技師（細胞診検査、超音波検査）など）の地域偏在の解消と地域への定着化を促進し、最新がん医療の学び直しを行うことで、県民が安定したがん医療の提供を受けることを可能とする。
教育内容の特色等	地域がん診療ネットワークの強化と山陰地区全体のがん医療の均てん化を図る。臨床腫瘍学の基礎知識、画像診断、がん化学療法、外科治療、集学的治療、緩和医療など幅広いトピックスを公開講座形式で随時開講する。一部の講義はeラーニングシステムを利用して受講することも可能とする。
養成人数	下表

年　度	H24	H25	H26	H27	H28	計
募集人員	15	15	15	15	15	75
受入目標人数	15	15	15	15	15	75
受入実績（H26.10.1時点）	16	26	15			

各大学のコース紹介と養成実績

大学院 教育コースの紹介

鳥取大学

大学名等	鳥取大学大学院医学系研究科看護学専攻
コースの名称	がん看護専門(認定)看護師養成コース
養成する専門分野	1 がん看護専門看護師　2 認定看護師(がん化学療法看護)　3 認定看護師(乳がん看護)
コースの開始時期／修業年限(期間)	1 平成27年4月予定 / 2年　2 平成24年9月 / 7ヶ月　3 平成26年9月 / 7ヶ月
コースの履修対象者	1 臨床看護経験が5年以上およびがん看護経験が3年以上ある者で本学大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程(がん看護専門看護師コース)に入学した者。 2 臨床看護経験が5年以上および、がん化学療法の臨床経験が3年以上ある者で、本学の定める入学試験に合格した者。 3 臨床看護経験が5年以上および、乳がん患者の多い病棟または外来で3年以上の看護実践を有する者で、本学の定める入学試験に合格した者。
養成する人材像	1 がん看護分野、特に化学療法と緩和ケアの分野において、実践、教育、相談、調整、研究、倫理において卓越した知識・技能を持つ者。 2 がん化学療法看護に関して卓越した技能を有する者。本コース終了後、看護協会で定める認定看護師認定審査に受験・合格可能な者。 3 乳がんの予防から終末期に至るまでの乳がん患者とその家族のQOL向上に向けて、熟練した看護技術を用いて質の高い看護実践ができる者。また、本コース終了後、看護協会で定める認定看護師認定審査に受験・合格可能な者。
当該人材養成により期待される成果や効果(アウトカム)	1 がん看護専門看護師が絶対的に不足している山陰両県において、幅広くがん看護の質が向上するとともに、がんに関わる認定看護師の育成が期待される。地域医療における外来化学療法および緩和医療において、患者管理や看護実践に対する教育やコンサルテーションが可能となる。 2 がん化学療法認定看護師が絶対的に不足している山陰両県において、がん化学療法に対する知識、技能を習得し、がん患者とのコミュニケーションがスムーズにできる看護師が養成されることによって、外来がん化学療法の治療環境が良くなり、がん化学療法実施による副作用等のリスクが少なくなる。 3 乳がん看護に対する知識や技術に精通した認定看護師が多数育成されることで、地域のがん医療人養成とがん医療の均てん化を図るとともに、乳がん患者のより一層のQOL向上を推進することができる。
教育内容の特色等	1 がん全般の知識・技術を習熟し、地域医療に活かせる化学療法看護および緩和ケア看護を重点的に教育する。 2 がん化学療法の知識、技能およびコミュニケーション能力の向上により、患者の異変に対する早期発見・早期対処が可能となる。また、自らの実践力を向上させる能力を育成する。 3 乳がんを有する患者の看護実践をとおして他の看護職者に対して相談・支援・指導ができる能力を育成する。

1 養成人数

年　度	H24	H25	H26	H27	H28	計
募集人員	0	0	0	2	2	6
受入目標人数	0	0	0	2	2	6
受入実績(H26.10.1時点)	0	0	0			

2 養成人数

年　度	H24	H25	H26	H27	H28	計
募集人員	10	10	0	0	0	20
受入目標人数	10	10	0	0	0	20
受入実績(H26.10.1時点)	7	9	0			

3 養成人数

年　度	H24	H25	H26	H27	H28	計
募集人員	0	0	10	10	10	30
受入目標人数	0	0	10	10	10	30
受入実績(H26.10.1時点)	0	0	4			

大学院 教育コースの紹介

岩手医科大学

大学名等	岩手医科大学大学院医学研究科医科学専攻・内科系専攻
コースの名称	緩和ケア地域連携を支援する指導的医療人育成コース
養成する専門分野	緩和医療
コースの開始時期／修業年限（期間）	平成25年4月 ／ 修士課程：2年　博士課程：4年
コースの履修対象者	大学院医学研究科医科学専攻応用医科学群　修士課程 大学院医学研究科内科系専攻　博士課程
養成する人材像	がん治療経過中のQOL維持には、地域連携による緩和ケアの持続的な提供が不可欠である。しかし近年の医師不足に加え、先の震災により、東北における緩和ケアの地域連携は各地で壊滅的な打撃を受けた。本コースは、各地域の緩和ケア連携体制の再構築および均てん化を目指し、訪問看護医療も含めた地域ごとの実情に沿った連携システムの整備、ならびに永続的支援を提供するための、各専門職種からなるスキルミクス指向型の指導的医療人育成を目標とする。
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	● 緩和ケアを含めた、がん治療全般に対する知識、技術を獲得することにより、各種認定資格（がん治療認定医、緩和薬物療法認定薬剤師等）の取得を学術的に支援する。 ● 各地域において、緩和ケア医療連携が整備されることにより、居住地によらずがん患者が安定して緩和ケアを受けることが可能となる。
教育内容の特色等	本コースは、「北東北がん医療コンソーシアム」の現場で活動している各医療専門職を主な対象として、緩和ケアについての高度な知識・技術を獲得するとともに、実践的演習を通じて、チーム医療を構成する各職種の専門性を理解し、適切なコミュニケーション、情報の共有方法、およびチームマネジメントの手法を学ぶ。
養成人数	下表

年　度	H24	H25	H26	H27	H28	計
募集人員	0	3	3	3	3	12
受入目標人数	0	3	3	3	3	12
受入実績（H26.10.1時点）	0	1	2			

インテンシブ 教育コースの紹介

岩手医科大学

大学名等	岩手医科大学大学院医学研究科医科学専攻
コースの名称	先導的がん臨床研究に精通した医療人育成コース（インテンシブ）
養成する専門分野	●トランスレーショナルリサーチ（TR）マネジメント ●レギュラトリーサイエンス
コースの開始時期／修業年限（期間）	平成25年4月 ／ 1年間（3単位）
コースの履修対象者	先導的がん医療システム開発コンソーシアム（がん医療イノベーション）の参画者を対象とする。 ■ 医師/看護師/薬剤師をはじめとした医療者 ■ 医療系/理工系研究者 ■ 医薬品･医療機器開発企業担当者
養成する人材像	地域で高品位ながん医療を効率的･経済的に運用するため、医療現場のニーズに応じた医薬品･医療機器の開発を行うため、生命科学あるいは理工系の知識に造詣が深く、TRに精通し、守られるべき患者の権利を尊重する敬虔な医療人の育成する。さらにレギュラトリーサイエンスに精通し、臨床試験を実施できる人材の育成を行う。
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	●本インテンシブコースの参加者を中心に、3年後を目標として大学院博士課程でのコース設立を目指す。専門家の集うインテンシブコースを設立準備機構として位置づけ、大学院コースに昇華させる。 ●人口移動の少ない岩手の地勢メリットを生かし、長期フォローの可能な、世界的にも類を見ないがん研究拠点形成の第一歩と期待される。 ●壊滅的な被害を受けた岩手沿岸地域に、先導的ながん医療臨床試験のフロンティアフィールドを整備するために必要な人材が育成され、地域住民の福祉にも直接的に貢献する。
教育内容の特色等	●本コースは、異分野の専門職が集い討議するワークショップ形式のプログラムと、TRならびにレギュラトリーサイエンスに係る講義を併用し、地域で先導的がん医療を実践するために必要な知識を習得する全く新しい試みである。 ●教育課程では東京理科大学大学院との連携を行う。
養成人数	下表

年　度	H24	H25	H26	H27	H28	計
募集人員	0	5	5	5	3	18
受入目標人数	0	5	5	5	3	18
受入実績（H26.10.1時点）	0	6	6			

大学院 教育コースの紹介

東京理科大学

大学名等	東京理科大学薬学研究科薬科学専攻修士課程
コースの名称	がんシステム･創薬研究者養成コース
養成する専門分野	創薬医科学
コースの開始時期／修業年限（期間）	平成24年4月 ／ 2年間
コースの履修対象者	薬学研究科薬科学専攻修士課程　大学院生
養成する人材像	がん研究は、がん遺伝子を基点としたオミックスデータやがん細胞の分子生物学的な研究手法により、がんの複雑さが明らかにされてきてはいるが、まだ十分に御することができないのが現状である。そのため、（1）がん細胞及び制がん剤作用機序を細胞内シグナル伝達系の集積による「システム的統合」として理解し、さらに、（2）がん分子標的薬開発を標的タンパク質の立体構造情報に基づいて理論的に創薬する「in silico 創薬」を理解して、21世紀のがんゲノム医療を支える研究者を養成することが重要課題となっている。本研究教育コースでは、このような点に焦点を絞り、国際的にも活躍できる優れた創薬研究者を養成する。
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	本研究教育コースにより、がん病態やがんシグナルパスウェイからがん分子標的の同定や、制がん剤の作用･副作用機序等を「がん統合システム」として理解し、さらに、コンピュータシミュレーション技術を活用してがん分子標的タンパク質の立体構造を基に理論的な創薬を追及する「in silico創薬」の重要性を理解した新世代の創薬研究者が輩出されることになる。また、本コースで論理的がん戦略を推進する人材が養成されることによって、現在のがん研究が直面しているがん幹細胞や新規制がん剤開発等に関する様々な難問、限界を飛び越え、我が国のがん研究の水準が飛躍的に向上するとともに、がん医療体制を強化するなどの波及効果が期待される。
教育内容の特色等	従来の教育コースにはなかった以下の学問領域･演習により成る「がんシステム･創薬学」について、順天堂大学医学部及び製薬企業等と実質的な連携体制を構築して実施する。このような研究教育内容はこれまでになく、極めて独創性に富んでいる。 （1）「がんシステム統合学」 がん細胞内の集積回路の解析とその数理モデル作成によって、個々のがん特異的な遺伝障害による集積回路の構造的、機能的変化からがん発症の仕組みや特性を理解することによって、がんをゲノム･エピゲノムからメタボロームまでを一貫したシステムとして捉える。さらに、制がん剤の作用機序も細胞内シグナル伝達系集積システムとして理解する。 （2）「ゲノム創薬科学」 がん遺伝子を基点とした制がん剤開発のためのがん標的タンパク質分子の立体構造情報に基づく理論的創薬手法を理解する。特にがん遺伝子の変異に対応した最適制がん剤を理論的に創成するためのコンピュータシミュレーション技術、副作用や薬剤耐性を克服するための方策を立案する能力を涵養する。 （3）「臨床データ･サンプルを用いた研究技法演習」 順天堂大学医学部と連携し、臨床データやサンプルを用いて上記「がんシステム」、「in silico創薬手法」、「制がん剤の処方デザイン」などの妥当性･有効性を検証する。このように臨床と直結した研究技法演習を行う。
養成人数	下表

年　度	H24	H25	H26	H27	H28	計
募集人員	3	5	5	5	5	23
受入目標人数	3	5	5	5	5	23
受入実績（H26.10.1時点）	10	6	9			

大学院 教育コースの紹介

明治薬科大学

大学名等	明治薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程
コースの名称	がん薬物療法のファーマシー・サイエンティスト養成教育コース
養成する専門分野	薬剤師
コースの開始時期／修業年限（期間）	平成24年4月 ／ 4年
コースの履修対象者	薬学研究科薬学専攻博士課程大学院生・科目等履修生
養成する人材像	がん薬物治療の集学的治療に貢献できる国際的な薬学知識と研究能力をもつ優れたファーマシスト・サイエンティスト（pharmacist scientist）を養成する。
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	●がん薬物療法における薬剤師の貢献に高度な学術的内容を付加できる。 ●薬剤師の治療評価診断能力を養成出来る。 ●社会人大学院生を積極的に受け入れ、がん医療に関わる薬剤師の教育および研究指導者を養成できる。 ●欧米大学との教育連携により国際的レベルの臨床薬剤師育成教育ができる。 ●社会人大学院学生に対して各種学会（医療薬学会、臨床薬理学会等）の認定専門薬剤師取得を学術的に支援できる。
教育内容の特色等	●臨床現場で活躍する薬剤師を社会人大学院生として積極的に受け入れ、教育・学術研究能力を育成する。 ●学内および順天堂大学の専門医によるフィジカルアセスメント教育プログラム創設。 ●教育連携を実施している欧米3大学および順天堂大学医学部から教員を招聘し、日米欧教育シンポジウムと短期集中がん薬物療法教育プログラムを実施する。

養成人数

年　度	H24	H25	H26	H27	H28	計
募集人員	2	3	3	3	3	14
受入目標人数	2	2	2	2	2	10
受入実績（H26.10.1時点）	5	3	7			

大学院 教育コースの紹介

立教大学

大学名等	立教大学理学研究科物理学専攻
コースの名称	医学物理研究コース
養成する専門分野	医学物理士
コースの開始時期／修業年限（期間）	平成24年4月 ／ 3年
コースの履修対象者	理学研究科物理学専攻大学院生（後期課程）
養成する人材像	放射線の本質を理解し、最先端の放射線計測技術の成果を臨床現場のニーズに合わせて活用できる能力を有する医学物理研究者及び医学物理士。
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	●がん治療時のリアルタイムでの照射量測定技術の開発。 ●高精度がん治療における品質保証の向上。 ●臨床現場と放射線技術開発の密接な連携強化。 ●福島原発事故からの復興に関わる保健物理への貢献。
教育内容の特色等	●臨床現場に身を置き、現場ニーズにあった放射線制御およびモニター装置の開発等研究開発能力を備えた博士の育成。
養成人数	

年　度	H24	H25	H26	H27	H28	計
募集人員	2	2	2	3	3	12
受入目標人数	1	1	1	2	2	7
受入実績（H26.10.1時点）	1	2	0			

がんに特化した講座等について

順天堂大学

医学部 腫瘍内科学研究室

国民の2人に1人が罹患し、3人に1人が死亡する悪性腫瘍の治療成績の向上は、我が国の医療における最大の課題であり、がん医療に専門的に従事する優秀な次代の人材を育てることが国民からも強く求められています。がんは遺伝子の構造異常により生じる病気であるため、一つの遺伝子異常が複数の臓器にまたがることも稀ではなく、次代のがん医療従事者は臓器横断的な俯瞰的な視点を持つ必要があります。腫瘍内科学研究室は、臓器別に理解されている知識を有機的に結びつけ、がん細胞の分子生物学的特性というミクロのレベルから、実際の患者の発癌、転移などの臨床的病態の理解および治療というマクロレベルまで、深い洞察力を持った若い医師の育成のために、がんに特化した講座として新設されました。

臨床腫瘍学（腫瘍内科学）に関する卒前教育（医学教育）・卒後教育（大学院生に対する研究、論文指導）のみならず、臨床試験のプロトコール企画・実施の支援、がん治療センターの運営支援、さらには先導的がん医療開発センターを拠点とした連携大学間の研究支援をつなぐ一拠点として活動を行って参ります。

教員数（H26.10.1）	教　授　1名	准教授　0名	講　師　0名	助　教　1名	非常勤　2名

＜特記事項＞
現在在籍している教授1名、助教1名（兼任）、助手1名である。
医学部腫瘍内科学研究室の大学院における研究分野名称は医学研究科臨床腫瘍学である。

医学部 緩和医療学研究室

緩和医療学研究室は、自然科学と人間科学を統合した緩和ケア学の確立と教育・実践、緩和医療医養成、緩和ケアに関心を有する医療従事者の育成、緩和ケア領域における臨床研究を行うことを目的としています。

本研究室では、附属病院に設置された緩和ケアセンターの運営に携わっています。麻酔科ペインクリニック医師、メンタルクリニック医師、看護師、臨床心理士、薬剤師、理学療法士、医療ソーシャルワーカーで構成される緩和ケアのチーム医療を通じ、病を抱えながら過ごす患者さん（主にがんの患者さん）とそのご家族に対し、希望を大切に充実した豊かな人生を「生きること」を支援します。多職種間のコミュニケーションを重視したチーム医療を通じて、がん専門医療人の養成を行います。また、緩和ケア領域における臨床研究を通じてがん研究者を養成し、患者・家族ケアの質の向上と地域・社会貢献に努めて参ります。

教員数（H26.10.1）	教　授　1名	准教授　1名	講　師　0名	助　教　0名	非常勤　2名

医学部 放射線治療学講座

本講座は、放射線医学講座が放射線診断学講座と放射線治療学講座に発展的に分離、独立しました。設立の目的は、放射線腫瘍医、医学物理士の有機的統合により高精度放射線治療の基礎および臨床研究を行い、かつ、がん治療教育の充実を図ること、また、連携大学との協力による相互の診療と各地域がん診療の充実を図ることです。

放射線治療専門医（8名）と医学物理士（助教2名　助手2名）を中心に、大学院生に対する放射線生物学および医学物理学の基礎研究指導を行っています。さらに、基礎研究を基盤に高精度放射線治療の開発研究を進めています。連携大学とは臨床面および医学物理面で協力体制の構築を行っています。

このような研究・教育体制により「基礎研究に造詣の深い放射線腫瘍医、医学物理士、放射線治療専門技師」の育成を図っています。

教員数（H26.10.1）	教　授　2名	准教授　2名	講　師　0名	助　教　8名	非常勤　9名

＜特記事項＞
助教には助手3、医学物理士4名を含みます。

がんに特化した講座等について

島根大学

医学部 医学科 緩和ケア講座

緩和ケア講座は、教育（卒前、卒後、大学院）、臨床、研究を担当しています。卒前教育としての医学生教育は、ロールプレイを取り入れたチュートリアル教育と臨床実習で全人的な痛みを理解することに重点を置いています。当大学病院には、緩和ケア病棟・緩和ケアチーム・緩和ケア外来で臨床実践が行える、全国でも有数の緩和ケア臨床システムを構築しており、卒後教育として希望する初期研修医には緩和ケア病棟で教育を行い、その後は緩和ケア専門医育成プログラムによる専門教育を予定しています。他の医療関係者に対しては、島根県と連携した研修会による緩和ケア専門医療者（医師、医療スタッフ）の認定と育成を行うこと、大学院教育については緩和ケアを大学院で教育するために痛みの治療と地域連携ケアの研究を、ICTを利用して展開していく方針です。

教員数（H26.10.1）	教　授　1名	准教授　0名	講　師　0名	助　教　0名	非常勤　0名

岩手医科大学

緩和医療学科

本学科は、緩和ケアの卒前・卒後の教育の確立・実践、臨床研究者の育成、地域ごとの実情に沿った連携システムの整備と各専門職種からなるスキルミクス指向型の指導的医療人の育成を目的としています。

教員数（H26.10.1）	教　授　1名	准教授　0名	講　師　0名	助　教　0名	非常勤　0名

＜特記事項＞　准教授、講師1名、どちらか1名を配置予定。

放射線腫瘍学科

本学科は、放射線腫瘍学の卒前・卒後の教育の確立・実践、地域ごとの実情に沿った連携システムの整備、放射線治療に生物学・物理学的最適化戦略を開発・研究するがん放射線治療医の育成を目的としています。

教員数（H26.10.1）	教　授　1名	准教授　0名	講　師　1名	助　教　0名	非常勤　0名

＜特記事項＞　助教1名を配置予定。

明治薬科大学

がん先端治療学（アルファ粒子線・免疫治療学）

がんに対する中性子捕捉療法は難治性がんの治療として注目されています。本講座では、中性子捕捉化合物として新規のホウ素およびガドリニウム化合物を本学の化学研究者と共同で開発・改良すること、捕捉化合物をがん組織に効率的に送達させるdrug delivery systemの開発をすること、さらにはこれに免疫療法を加味した新規治療法を開発することを目的としています。今後、本学の創薬研究者との共同研究で新規がん治療法が開発されることが期待されます。

教員数（H26.10.1）	教　授　1名	准教授　0名	講　師　0名	助　教　0名	非常勤　0名

＜特記事項＞　期間：平成25年10月1日から3年間。

ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン 外部評価委員会

発行日：平成26年11月
編　集：順天堂大学がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事務局
発　行：がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン連携7大学運営連絡会

〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1　電話 03-5802-1710（直通）
URL　http://ganpro-ict-plan.jp/index.html